

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 10日

中施策事業名	景観形成事業（屋外広告物）	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中野 忠之

①めざすまちの姿	03 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない
②大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる
③中施策	明るく死角が少ない街をつくる
④中施策事業の対象	屋外広告物
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	良好な景観が形成されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観行政</li> <li>・屋外広告物</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
違反広告物の除却 件数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	35	30	25	20	15	10
	実績値	8	2				
単位	件						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		1,462千円	1,356千円		
人件費	a 事業費合計	0千円	0千円	0千円	
	正規職員	人数	0.25人	0.25人	
		b 金額	1,462千円	1,356千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		1,462千円	1,356千円		
② 補助金等(収入)		689千円	570千円	525千円	
③ コスト(①-②)		773千円	786千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		11円	11円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	屋外広告物の巡回をおこなった。 計画通りに進んでいる。引き続き事業を継続実施する。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	良好な景観が形成されるよう、屋外広告物の巡回を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 19日

中施策事業名	空家等対策事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中野 忠之

①めざすまちの姿	03 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない
②大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる
③中施策	明るく死角が少ない街をつくる
④中施策事業の対象	適正に管理されていない空家等
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	特定空家等に該当するかどうかの判定を行い、是正指導を実施し、特定空家等の解消を図られている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>空家等対策協議会</li> <li>空家対策一般</li> <li>空家対策に係る国費・県費補助</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
特定空家等の件数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	1	1	1	1	1
	実績値	0	0				
単位	件						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		6,277千円	585千円		
a	事業費合計	4,523千円	585千円	650千円	
	正規職員	人数	0.3人	0人	
		b金額	1,754千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		1,754千円	0千円		
② 補助金等(収入)		2,214千円	375千円	375千円	
③ コスト(①-②)		4,063千円	210千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		59円	3円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	特定空家等の判定基準を作成した。今後、この基準を元に特定空家の判定、助言・指導、勧告を実施して行く。また、平成30年度は、不良住宅である空家等の解体費の補助を1件実施した。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	空家等に対し、特定空家等の判定基準に基づき判定を行い、豊明市空家等対策委員会で特定空家等と指定された空家に対し、助言・指導、勧告を実施する。また、空家等対策事業について、啓発活動を実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	空家等に対し、特定空家等の判定基準に基づき判定を行い、豊明市空家等対策委員会で特定空家等と指定された空家に対し、助言・指導、勧告を実施する。また、空家等対策事業について、啓発活動を実施する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	対策計画に基づき特定空家等の判定基準を作成した。しかし、判定作業を行うことが出来なかった。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	特定空家等の指定まで至らなかったため、助言・指導は未実施。	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 19日

中施策事業名	都市計画道路整備事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中野 忠之

①めざすまちの姿	08 交通の利便性がよく、市外から人が移り住んだり、通勤・通学している
②大施策	交通の利便性を高め、移住を促し、通勤・通学しやすくなるようにする
③中施策	市内外の移動がしやすくなるように、道路交通網を整備する
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市内の幹線道路である都市計画道路を整備され、市内交通の利便性が向上している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画道路の計画及び調整</li> <li>・補助幹線道路の整備</li> <li>・都市計画道路の見直し、都市計画道路の設計施工及び監督</li> <li>・都市計画道路の用地取得</li> <li>・用地買収地管理</li> <li>・用地買収地の目的外使用</li> <li>・高規格道路の連絡調整</li> <li>・豊明インターチェンジの整備拡充</li> <li>・第二東名高速道路高架下の利用</li> <li>・都市計画事業に伴う土地の試掘等の許認可事務</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
都市計画道路整備率	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	78.3	78.3	78.3	78.3	78.3	78.3
	実績値	77.8	78.3				
単位	%						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		553,199千円	440,760千円		
人件費	a 事業費合計	538,586千円	429,918千円	12,126千円	
	正規職員	人数	2.5人	2人	
		b 金額	14,613千円	10,842千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		14,613千円	10,842千円		
② 補助金等(収入)		25,834千円	77,000千円	0千円	
③ コスト(①-②)		527,365千円	363,760千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		7,663円	5,286円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成30年度決算額は、前年度に主たる工種完了したため平成29年度よりコスト減となった。また、計画とおり平成31年2月15日に開通式を行い供用開始することができたため実績値は増となった。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	平成31年度の事業は開通後の騒音・振動調査等を行ない、予定どおりであれば桜ヶ丘沓掛線（内山地区）の整備事業は完了する。今後は県道名古屋岡崎線の関連事業について進めていきたい。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	桜ヶ丘沓掛線の整備を継続して実施し、平成31年2月15日に開通式を行い供用開始した。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 10日

中施策事業名	市営駐車場管理運営事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中野 忠之

①めざすまちの姿	09 空気がきれいである
②大施策	きれいな空気を保全する
③中施策	排気ガスの排出量を抑制する
④中施策事業の対象	地下駐車場を利用する市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	駅前の駐車場の利用環境を整備することで利用台数を増やし、間接的に公共交通機関の利用を促進する
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 駐車場法に係る届出の受理及び監督 ・ 市営駐車場一般事務 ・ 市営駐車場修繕等事務 ・ 市営駐車場料金徴収事務全般

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
利用台数		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000	80,000
		実績値	119,763	137,007				
単位	台							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		69,813千円	60,660千円		
人件費	a 事業費合計	63,968千円	55,239千円	55,800千円	
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,845千円	5,421千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		5,845千円	5,421千円		
② 補助金等(収入)		19,355千円	20,726千円	20,710千円	
③ コスト(①-②)		50,458千円	39,934千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		733円	580円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	H29年度より、市民の利便性を高めるため、市内4箇所の市営駐車場業務を委託し、前後駅南地下駐車場を24h体制とした。また、駐車場の案内を、豊明市広報と中日ホームニュースに掲載し、PRを行った。駐車場利用者数が、H28年度に比べ2割強の伸びがあり、駐車場PRと24h体制とした効果があったと考えられる。引き続き事業を継続実施する。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	パークアンドライド機能を確保するため、市内4箇所の市営駐車場の適切な維持管理を行います。また、駐車場の利用台数の増加を図るため、サービスの改善、PR等を行います。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 10日

中施策事業名	緑化推進事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中野 忠之

①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる
③中施策	市民とともに緑が続く環境をつくる
④中施策事業の対象	公園や道路に設置された花壇やプランター
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	花を植栽し、憩いと安らぎのある環境をつくりだしている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・あいち森と緑づくり事業 ・ボランティア(花・アダプト) ・ペガサス財団との調整 ・二村山環境保全推進協議会 ・花壇維持補修修繕 ・花壇維持管理委託 ・グリーンフェスタ開催 ・種苗生産事業補助金 ・花いっぱい運動補助金 ・市民緑地 ・地域一括交付金 ・緑の募金 ・緑化コンクール ・緑の基本計画策定 ・開発指導要綱の緑地に関すること

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
フラワーボランティアが花壇に植えた花苗の数量	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000
	実績値	18,016	18,926				
単位	苗						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		10,958千円	10,483千円		
人件費	a 事業費合計	5,113千円	5,062千円	6,392千円	
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,845千円	5,421千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		5,845千円	5,421千円		
② 補助金等(収入)		89千円	253千円	951千円	
③ コスト(①-②)		10,869千円	10,230千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		158円	149円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>フラワーボランティアの募集チラシを作成し募集を行った。</p> <p>グリーンフェスタで緑化木の配布を実施した。</p> <p>計画通りに進んでいる。引き続き事業を継続実施する。</p>
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<p>フラワーボランティアの世代交代が進まない現状が課題となっていることから、フラワーボランティアの募集をし、組織の活性化を図る。</p> <p>グリーンフェスタで緑化木配布を実施する。</p>	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 19日

中施策事業名	公園緑地管理事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中野 忠之

①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる
③中施策	日常生活の中で自然を実感できる環境をつくる
④中施策事業の対象	公園、緑地
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	施設や樹木が適切に管理され、市民に安心安全な潤いのある空間を提供している
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・二村山緑地整備事業 ・公園施設維持管理業務(点検・修繕・工事) ・樹木剪定草刈委託 ・維持管理委託 ・公園の光熱水費、通信費、手数料、保険料、負担金 ・土地借上げ ・公園台帳 ・占用許可、公園内行為許可、公園使用料 ・非常勤一般職員

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
樹木剪定や草刈りをした公園・緑地の箇所数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	64	65	65	65	65	65
	実績値	64	65				
単位	箇所						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		124,125千円	127,574千円		
人件費	a 事業費合計	116,526千円	120,526千円	120,142千円	
	正規職員	人数	1.3人	1.3人	
		b 金額	7,599千円	7,048千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.3人	0.3人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		7,599千円	7,048千円		
② 補助金等(収入)		95千円	100千円	100千円	
③ コスト(①-②)		124,030千円	127,474千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		1,802円	1,852円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	遊具については、有資格者による点検を行い、その他の公園施設については、職員による巡回で施設の破損等を事前に発見し、適切な維持管理を行った。 計画通りに進んでいる。引き続き事業を継続実施する。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	都市公園は、整備後20年が経過した公園が約8割を占め、施設は老朽化し植栽管理も厳しい状況である。公園施設点検業者や職員の巡回等で施設の破損等を事前に発見し適切な維持管理に努める。 包括的な維持管理委託について検討を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	職員の巡回等を確実にを行い施設の破損等の早期の発見に努める。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 20日

中施策事業名	都市計画事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中野 忠之
①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている		
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる		
③中施策	生活利便性の高い街をつくる		
④中施策事業の対象	市域		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	都市計画に関する現状が整理され、適正な都市計画が進められている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・都市計画の決定、変更 ・都市計画マスタープラン ・都市計画基礎調査 ・都市計画審議会 ・立地適正化計画		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市街化区域内の人口 (百人未満切上げ)	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	52,200	52,500	53,000	54,000	54,500	54,500
	実績値	52,300	51,900				
単位	人						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)		4,395千円	16,796千円	
人件費	a 事業費合計	3,226千円	16,796千円	1,421千円
	正規職員	人数	0.2人	0人
		b 金額	1,169千円	0千円
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人
		金額	0千円	0千円
人件費合計		1,169千円	0千円	
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)		4,395千円	16,796千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		64円	244円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	第3次都市計画マスタープランの進行管理を行うとともに、市街地整備課と連携し、区域区分の見直しに係る都市計画決定の事務手続きを行った。 また、都市計画基本図の修正を行うとともに、インターネットを通じて利用できる公開型クラウド都市計画GISの構築を行った。都市計画審議会の視察研修を廃止した。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	第3次都市計画マスタープランの進行管理及び市街地整備課と連携し、区域区分の見直しに係る事務手続きを、継続して進めていく。また、市街地整備課を中心として、立地適正化計画の検討を行っていき、取りまとめに協力していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	第3次都市計画マスタープランの進行管理及び市街地整備課と連携し、区域区分の見直しに係る事務手続きを、継続して進めていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 19日

中施策事業名	住宅・建築物耐震化促進等安全ストック形成事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中野 忠之

①めざすまちの姿	19 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる
②大施策	災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する
③中施策	災害に備えて家庭での準備を促す
④中施策事業の対象	旧基準の住宅・建築物
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	大地震が発生しても倒壊しないよう住宅・建築物の耐震化を図る
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・建築防災一般 ・住宅・建築物の耐震診断・改修 ・住宅・建築物の耐震化促進に係る普及・啓発 ・宅地耐震化推進事業 ・建築防災に係る国・県補助金

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
耐震改修工事補助 件数 (H27年度か らの累計) 国・県 の補助事業が令和 2年度まで	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	41	56	71	86	0	0
	実績値	33	37				
単位	件						
啓発活動累計回数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	15	20	25	30	35	40
	実績値	15	20				
単位	回						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		12,190千円	5,954千円		
人件費	a 事業費合計	11,021千円	5,954千円	20,760千円	
	正規職員	人数	0.2人	0人	
		b 金額	1,169千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		1,169千円	0千円		
② 補助金等(収入)		8,256千円	4,504千円	15,680千円	
③ コスト(①-②)		3,934千円	1,450千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		57円	21円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より遅れている	×	C

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	新たなPR活動として、耐震診断を実施した家屋の所有者に耐震改修等の補助制度について案内するため、ダイレクトメールを送付したが、木造住宅耐震改修補助件数は、前年度実績より大きく下回った。しかし、新たに木造住宅除去費補助件数が2件あった。木造住宅以外の補助件数が昨年同様に無い状態である。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	PR活動を確実に実施していく。また、昨年に引き続きダイレクトメールの送付をする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	PR活動を確実に実施していく。また、ダイレクトメールの送付を実施していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 10日

中施策事業名	定住促進関連事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中野 忠之

①めざすまちの姿	28 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている
②大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる
③中施策	仕事と子育ての両立ができる環境をつくる
④中施策事業の対象	子育て世帯、又はその親世帯
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	子育て世帯とその親世帯が同居または近居することで、子育てしやすい環境づくりが図られている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・多世帯同居等補助事業 (同居リフォーム補助、同居・近居に係る固定資産税相当額一部補助)

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
補助申請のうち、 市外からの転入件 数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	10	15	20	25	30	35
	実績値	63	35				
単位	件						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		13,385千円	15,805千円		
人件費	a 事業費合計	9,878千円	15,805千円	17,700千円	
	正規職員	人数	0.6人	0人	
		b 金額	3,507千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		3,507千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		13,385千円	15,805千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		195円	230円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	同居・近居に係る固定資産税一部補助事業は、住宅取得から3年間を対象として補助を行った。税務課の協力により、家屋調査の際に補助制度の案内を行った。また、市外在住者への周知のため、ホームページにも掲載した。1年目の市外からの転入件数は、平成29年度と同数であった。また、同居リフォーム補助事業は、1件の申請があった。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	補助対象者の申請忘れ等が無いように、事業の周知を確実に行っていく必要がある。そのため、昨年度と同様に税務課の家屋調査の際に補助制度の案内を行っていただくように協力してもらう。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	市外からの転入者を呼び込むため、ホームページに事業案内のデータを引続き掲載する。また、年度初めに補助制度の案内を広報や町内会へのチラシ回覧を実施する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 19日

中施策事業名	公園施設整備事業	部課名	経済建設部・都市計画課
		作成者	中野 忠之

①めざすまちの姿	29 子どもが元気に外で遊んでいる
②大施策	子どもが元気に外で遊べるまちをつくる
③中施策	身近に安心して遊べる場所を整備する
④中施策事業の対象	公園
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	老朽化した公園施設の改修や新たな公園整備により、市民が憩える場所が整っている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・公園施設改修事業 ・社会資本総合整備事業、市町村土木補助事業 ・公園・緑地の 用地買収

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
事業実施年度		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
改修工事を実施した公園の数(累計)	目標値	3	4	4	5	6	6
	実績値	3	4				
	単位	箇所					
事業実施年度		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
目標値		0	0	0	0	0	0
実績値		0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		35,165千円	28,038千円		
人件費	a 事業費合計	30,781千円	23,972千円	26,789千円	
	正規職員	人数	0.75人	0.75人	
		b 金額	4,384千円	4,066千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		4,384千円	4,066千円		
② 補助金等(収入)		4,493千円	3,073千円	8,000千円	
③ コスト(①-②)		30,672千円	24,965千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		446円	363円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	高鴨公園の再整備にあたり、ワークショップを行い、地元より要望のあったクライミング遊具等の設置を行うなど、住民の意見を反映しながら実施することができた。計画通りに進んでいる。引き続き事業を継続実施する。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	安全と緑の確保を考慮し、多様な世代が利用しやすい公園施設を整備をする。(池浦公園、大久伝公園、はざま公園、高鴨公園) また、平成31年度は、栄町内山地内に大脇内山緑地を整備する予定です。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		